

令和6年度 農福連携交流会

開催概要



令和6年5月
近畿農政局 兵庫県拠点

令和6年度農福連携交流会 開催概要

目 次

- 1 「令和6年度農福連携交流会」のチラシ . . . P1
- 2 「令和6年度農福連携交流会」の概要 . . . P3
【主催者挨拶】
【講演】（取組発表）
【行政からの情報提供】
【意見交換会】
- 3 アンケート結果 . . . P10
- 4 意見交換会の参加者紹介 . . . P18

みんなで耕そう！ 人・地域・未来の豊かな循環

ノウ（自然、農林水産業）

×

フク（人、福祉）

2024 5.21 (火) 13:30~16:50



会場：小野市うるおい交流館エクラ
〒675-1366 兵庫県小野市中島町72



農福 連携交流会

- 最初の一步をみんなと一緒に -

農福連携は、農林水産業を通じて、
誰もが活躍できる社会をめざす取組です。

ノウ フク

= 交流会概要 =

講演（取組発表）

ち ゆ ら し ん ぼ わ か ば
CuRA! 代表 眞保 若葉 氏

あ お は に か い さ か き ば ら の り と し
社会福祉法人青葉仁会 理事長 榊原 典俊 氏

意見交換会（最初の一步をみんなと一緒に）

と よ だ ま さ ひ ろ
ファシリテーター 兵庫県立大学大学院 教授 豊田 正博 氏



※お申込み等の詳細は裏面へ

主催：農林水産省近畿農政局兵庫県拠点

協力：兵庫県



講師ご紹介



👑ノウフク・アワード2021フレッシュ賞受賞！



CuRA!

代表 真保 若葉氏

「いちからすべて みんなと一緒に」の理念で、ほ場から販売までの全作業を障害者と協働。ハーブや在来野菜の栽培や、近隣の果物等を使った加工品も製造、販売しています。

👑ノウフク・アワード2023グランプリ受賞！



社会福祉法人 青葉仁会
理事長 桺原 典俊氏

約40年前から始まった農業やものづくり等、青葉仁会の取り組みは、農地の広がりとともに県内7店舗の飲食店や弁当・菓子・パン・瓶詰・冷凍レトルト食品の製造など多岐に渡り拡大し、今では約420名の利用者さんが日々何らかの作業に取り組まれています。



ファシリテーターご紹介



兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
教授 豊田 正博氏



園芸療法を活用した障害者の就労支援や、農林水産政策研究所連携研究メンバーとして、農作業を行う知的障害者および精神障害者の健康改善効果についての研究を行っています。

農福連携とは？

障害者の皆様等が農業分野で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。

農福連携交流会の目的は？

担い手不足（労働力確保）や耕作放棄地の増加等、農業サイドが抱える課題と、就労先確保や工賃向上等、福祉サイドの抱える課題を双方から解決することが期待されています。本交流会では、取組事例の紹介や意見交換により兵庫県内における農福連携への理解を深め、取組の輪を広めることを目的に開催します。



《プログラム》

1 講演（取組発表）

OCuRA!

講師：真保 若葉氏

○社会福祉法人 青葉仁会

講師：桺原 典俊氏

2 行政からの情報提供

○農林水産省

○兵庫県

3 意見交換会

ファシリテーター：兵庫県立大学大学院 教授 豊田 正博氏

☆意見交換会参加者☆

《農業者等》

- 農事組合法人みやまえ宮農
- 花卉園芸 長谷川
- 壽ファーム
- 株式会社おかもと農園
- Home Base

《就労継続支援施設》

- 社会福祉法人上野丘さつき会
- 社会福祉法人 よい子の広場福祉会
書写ひまわりホーム
- 一般社団法人エイビーエス
就労支援事業所 宿花

開催場所

小野市うるおい交流館エクラ(市民交流ホール)

〒675-1366 兵庫県小野市中島町72

駐車場：無料（150 台可）

【お車で越しの方】

山陽自動車道「三木小野 I.C」より車で約10分。

【電車で越しの方】

らんらんバスでJR市場駅より約14分、神鉄小野駅より約7分。

開催日時

令和6年5月21日（火） 13:30～16:50
(受付開始 12:30～)

参加対象

農業者、福祉事業所、行政機関等、農福連携の取組に関心のある方

参加費

無料

募集人数

定員：100名 ※定員に達した場合は、申込締切前であっても締め切らせていただきます。

申込方法

申込締切:令和6年5月13日(月) 17:00まで

二次元コードからも
申込みます



○参加申込は、インターネットからお申込みください。

※当省ドメイン (@maff.go.jp) からのメールを受け取れるようにしてください。

○フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。

<申込先URL> 近畿農政局兵庫県拠点ホームページ

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/kinki/form/20240521.html>

お問合せ先

近畿農政局兵庫県拠点
担当者：大木、田住、福井
☎ 078-331-5924

ご不明な点については、お問合せください。



令和6年度農福連携交流会の概要

はじめに

近畿農政局兵庫県拠点、令和6年5月21日(火)、小野市うるおい交流館エクラ市民交流ホールにて「農福連携交流会」を開催いたしました。

本交流会は、兵庫県内の農福連携の取り組みを一層推進し、地域共生社会の実現に資するため、農福連携の取組事例の発表や意見交換により、兵庫県内における農福連携への理解を深め、取り組みの輪を広めることを目的としています。

当日は132名の皆様にご参加頂き、ノウフク・アワード受賞者の講演のほか、先駆的に農福連携に取り組む農業者や就労継続支援施設の方々との間で活発な意見交換が行われました。



主催者挨拶

近畿農政局兵庫県拠点 阿部地方参事官

農福連携の取り組みは、政府としても強く推進しているところであり、兵庫県内各地域においても様々な形での取り組みが行われており、その輪は確実に広がっていると思います。

一方で、農業、福祉のそれぞれの立場からは不安の声も出されており、様々な課題があると承知しております。本日開催する農福連携交流会のテーマ「最初の一步をみんなと一緒に」は、お互いの理解を深めて、不安を払拭し、連携してまずは最初の一步を踏み出してほしいという期待を込めております。

本交流会を通じ、少しでもマッチングに結びつき取り組みの輪が広がることを期待するとともに、県内各地域で行われている取り組みや交流をネットワークという線でつなぎ面として広げ、兵庫県における農福連携が更に発展していくことを祈念して、開会の挨拶とさせていただきます。本日のご参加誠にありがとうございます。



「いちからすべて みんなと一緒に」

CuRA! 代表 真保 若葉 氏



自家栽培のハーブを利用した商品群

就農と同時に農福連携に取り組み「いちからすべて みんなと一緒に」をコンセプトに掲げ、栽培から加工、包装、販売までのすべての作業工程を農福連携で実施。きっかけや、これまでに起きた様々な課題とその解決方法、普段気を付けている点や工夫している点など、継続して農福連携に取り組んで得た自身の経験を基に講演。



フレッシュ賞

ちゅら
CuRA! (新潟県新潟市)

ハーブと地域の農家の野菜や果物で
ドレッシングなど加工品を作っています。



「農福連携社会への取り組み」 - 量(人口、生産物)より質(持続可能)な地域再生にむけて -

社会福祉法人青葉仁会理事長 榊原 典俊 氏



施設利用者と職員と一緒に農作業や農産加工をはじめ、レストランや観光農園等を運営するほか、地域の特産品の開発や企業との連携等に取り組む。また、高齢化・人口減少が進む地域において耕作放棄地を引き受けたり、イベントを開催するなど農福連携の多様な組み合わせが地域の活性化につながる青葉仁会の取り組みについて講演。



グランプリ

社会福祉法人 青葉仁会

(奈良県奈良市)



農業のほか、加工業、販売業などの様々な業種の作業を通じて
障がい者の成長や経済的自立を支援し、過疎化が進む地域において
カフェ、レストラン、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開しています。

行政からの情報提供

近畿農政局農村振興部 今井地方参事官

農福連携等推進ビジョンの内容、国の支援事業等の情報提供のほか、ノウフク・アワード、農福連携フォーラムin近畿及び農福連携マルシェin近畿の取り組みを紹介。



兵庫県農林水産部農業経営課 西川班長

農福連携に取り組むに際しての農業サイド及び福祉サイドの課題と解決に向けたマッチングの説明、県内の地域別の就労系障害福祉サービス事業所の形態と地域別の事業所数について説明。

また、兵庫県における福祉部と農林水産部のそれぞれの支援体制と農福連携推進事業の紹介。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



意見交換会

県内で農福連携に取り組んでいる農業者5名及び福祉事業者3名（参加者紹介は18頁）から、取り組みのきっかけ、取組内容等を発表した後、ファシリテーターの豊田教授を中心に意見交換を行いました。



（ファシリテーター：豊田 正博 氏）

ご登壇いただきました参加者には、農福連携の「はじめての一步」をどのように進められたのか。また、その時の課題と克服した方法、農福連携に取り組んで良かったと思うこと、工夫していること、今後の展開について、ご意見を頂戴しました。



(中央:平岡 建造 氏)



(手前:長谷川 いづみ 氏)



(中央:万壽本 佳明 氏、右:岡本 将司 氏)



(左:畠 一希 氏、右:佐原 賢治 氏)



(左:田摩 正三郎 氏、中央:臼井 英之 氏)



意見交換会の終盤では、兵庫県の農業者の相談窓口としてひょうご農林機構(仲田氏)、福祉事業所の窓口として兵庫セルフセンター(堂前氏)の紹介と姫路農林水産振興事務所(齋藤氏)から県出先機関による地域でのマッチングに関する取り組みの紹介がありました。

【ファシリテーター 豊田 正博氏】

農福連携に取り組むにあたっては、いろいろな研修の機会を活用することや、例えば「人と作業のマッチング・ハンドブック」(ひょうご農林機構のHPからダウンロード可)や農林水産省が実施している「農福連携技術支援者育成研修のテキスト」(農林水産省HPよりダウンロード可)などの文献も大変参考になるので見ていただきたい。

ご来場の皆様は、本日のご講演や意見交換会を通じて、改めて農福連携の魅力、可能性、課題をご認識いただけたと思います。それぞれの現場において、今後取り組まれる参考となりましたら幸いです。

本日は農福連携に係る支援施策や、本年度予定している研修、関連行事についても共有させていただいております。県としましては農業、福祉、それぞれの窓口をもち、状況に合わせた連携、マッチングを推進しています。皆様の農福連携の活動の一助となりますよう、窓口あるいは国や県、市の研修を有効にご活用いただければと思います。

本日の交流会が、「最初の一步」というテーマである新しい連携が進むきっかけや課題の解決につながることを祈念いたします。



(参考資料)

淡路景観園芸学校HP

「農福連携 人と作業のマッチング・ハンドブック」

https://www.awaji.ac.jp/http/noufuku/book_202204

農林水産省HP

「農福連携の推進」

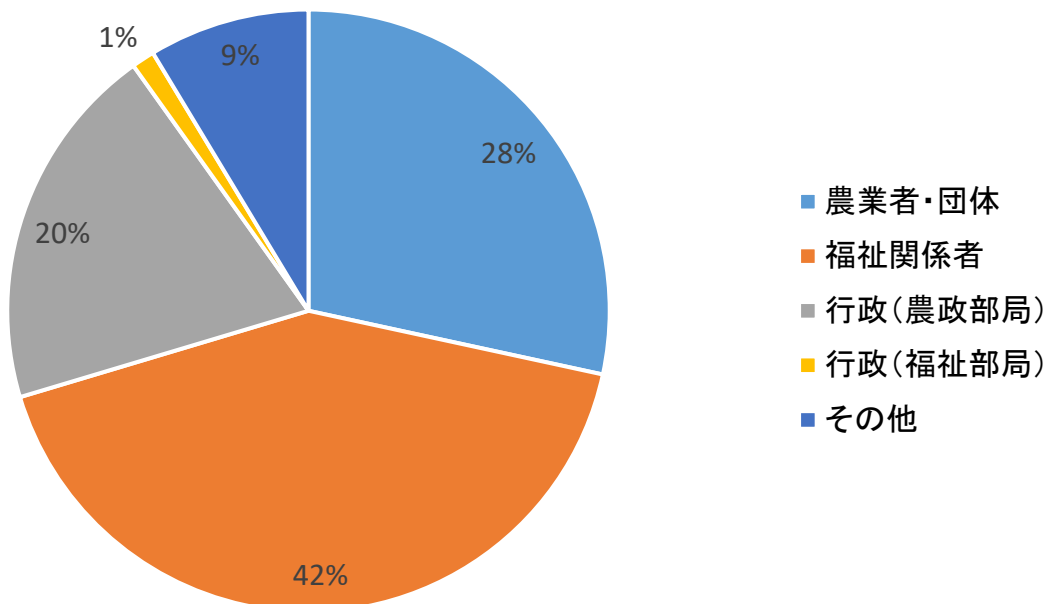
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/>

「農福連携技術支援者育成研修 テキスト Ver.4」

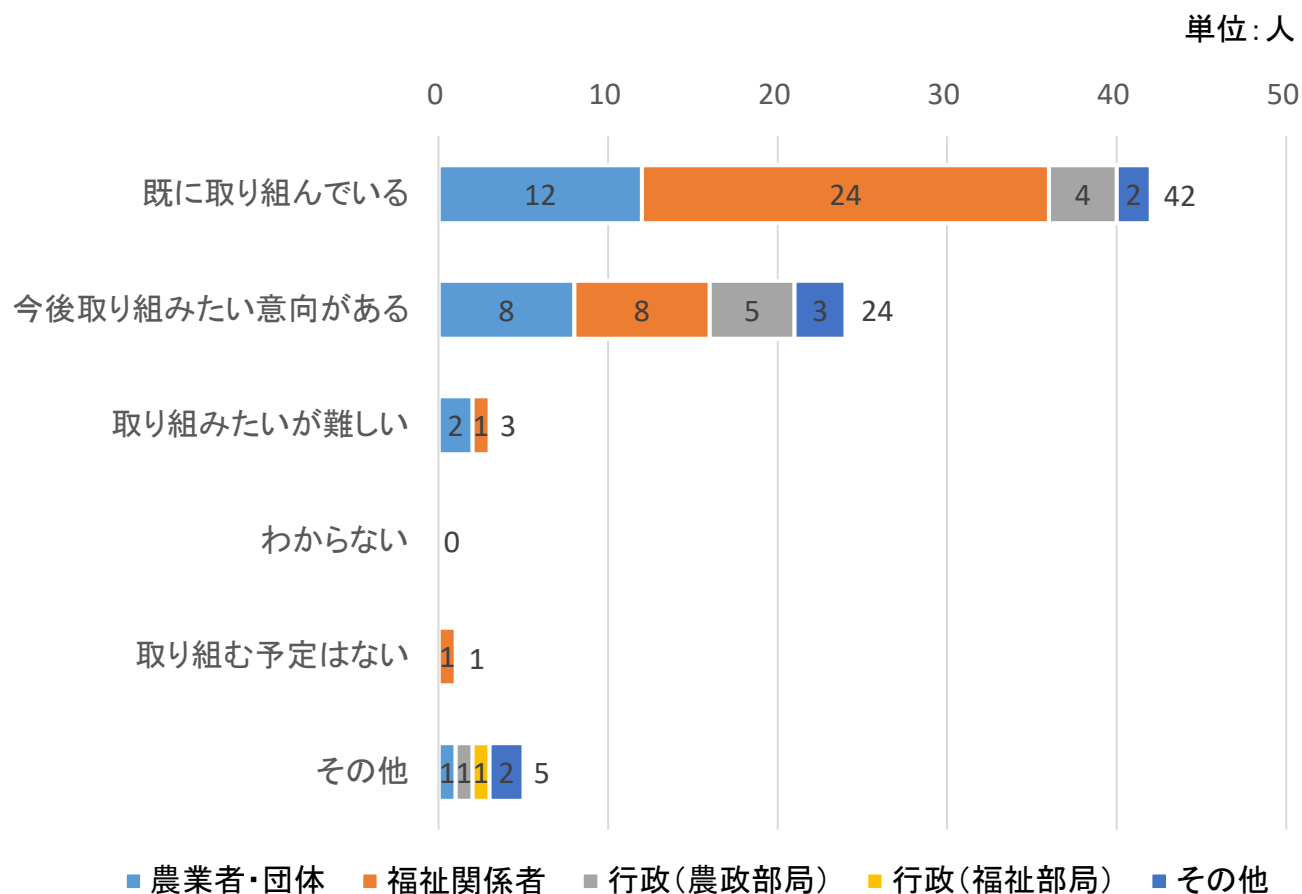
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/attach/pdf/seminars-9.pdf>

「農福連携交流会」アンケート結果(回答82名・回収率68%) (農林水産省関係者を除く)

Q1. 参加者の職業について



Q2.「農福連携」への取組(意向)状況について？



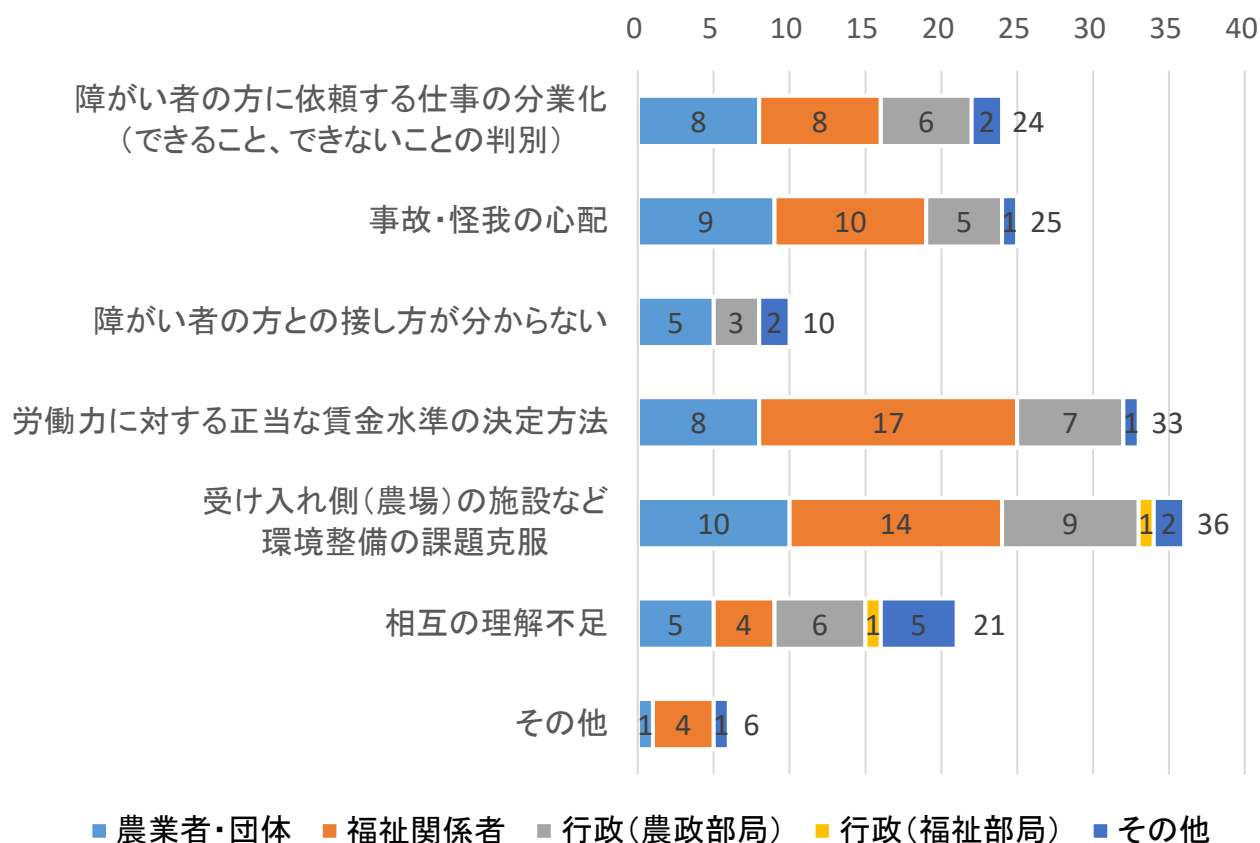
「その他」

- ・行政としてのバックアップ体制について研究中
- ・農業栽培技術の指導、農業体験
- ・市の状況を把握して何ができるか検討したい
- ・実践者から学ぶため意見交換会に参加
- ・出所者の社会復帰施策

Q3.「農福連携」に取り組む場合、何が困難と考えられますか？

(複数回答)

単位:人



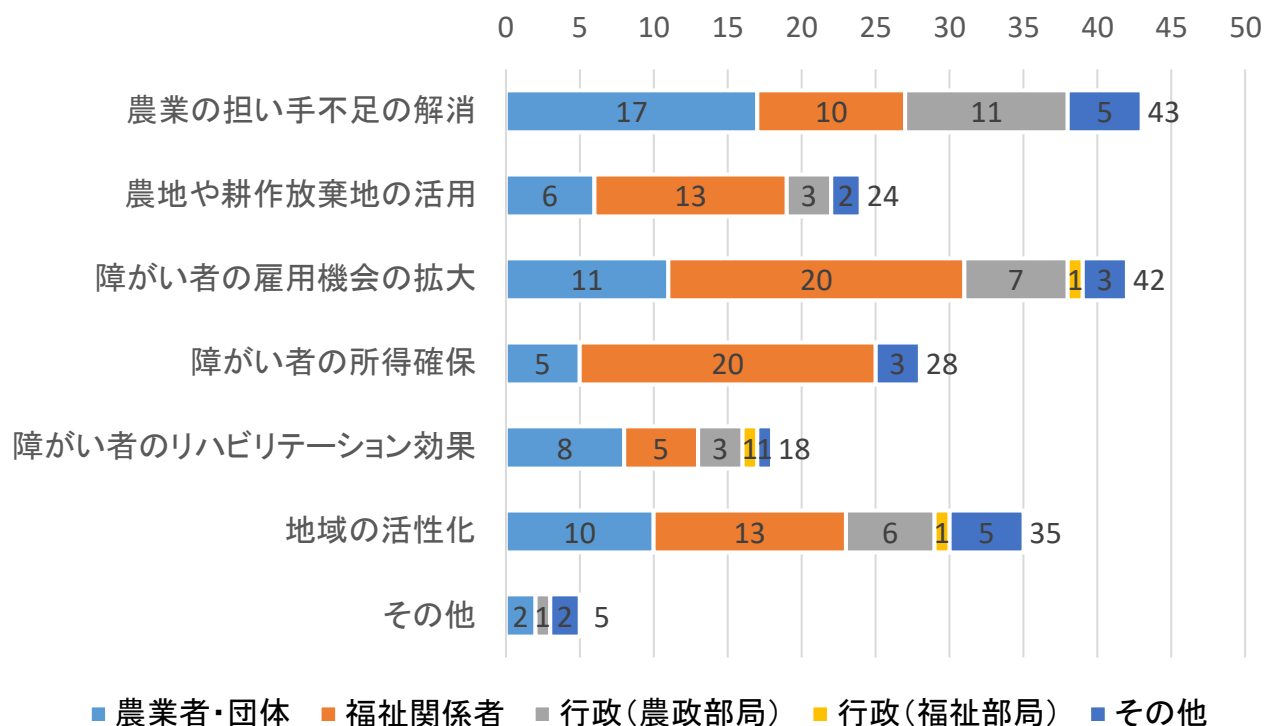
「その他」

- ・環境整備(トイレ)などの準備を行い農福連携に取り組む意向。一方で、金銭的な問題があり不安
- ・行政の窓口対応、農業と福祉で担当課が異なるので統一的な対応が困難
- ・福祉事業所がなかなか見つからない
- ・急に作業キャンセルがあり、日程等の調整や作業の予定に穴があく
- ・受け入れ側の障害に対する理解
- ・支援補助金が必要
- ・夏場の雨天など天候や閑散期にどう安定的に取り組むかが課題
- ・畑、足場の問題や、トイレと休憩所が必要
- ・障害者や触法者が自分の居場所であると納得してもらう土台作り
(相談できる相手や関係性など)

Q4.「農福連携」に期待することは何ですか？

(複数回答)

単位:人



「その他」

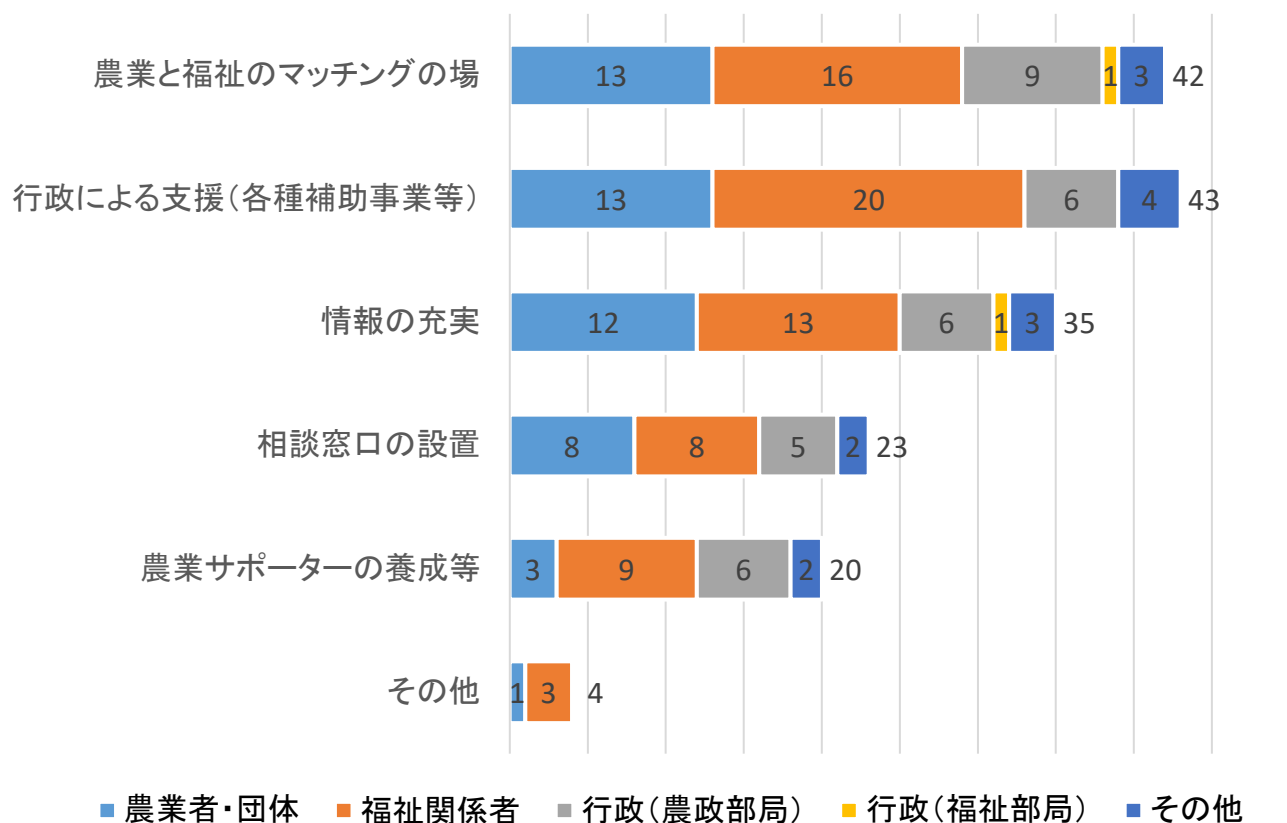
- ・障害者の社会参加
- ・障害のある方たちに対する社会の理解が進むことを期待
- ・障害者の社会的生活の向上
- ・誰もがいきいきと暮らせる社会
- ・福祉を必要とする者の居場所作り
- ・刑務所出所者等の居場所の1つとなること

Q5.「農福連携」を進めるために何が必要だと思いますか？

(複数回答)

単位:人

0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50



「その他」

- ・地域コミュニティとの連携
- ・一般の人の理解
- ・相互が気軽に相談しあえる環境
- ・農業、福祉、企業との交流
- ・障害者を労働力としてしか捉えない事、その方の成長を育む視点が必要
- ・福祉事業所職員の意識改革

Q6. 本日の交流会のご感想をお聞かせ下さい。

また、農福連携の推進のため、ご意見・ご提案がありましたらご記入下さい。

【農業者・団体】

○金銭的な面の問題もあると思うが、やってみて、障害者の人の作業を見て何か考えが浮かび、前に進めるのではと考える。

○”はじめの一步””とにかくやってみよう”この言葉を頼りに、まずはやってみようと思えた。

○サイトでのマッチング。農業者側は本日配布された農作業依頼シートの掲載、事業所側はこの様なことが出来る(加工など)といった案内。今までこの様なことをした事がない。

○アンケート調査(福祉側、農家側)を行い、互いに問題点等を洗い出し、結果を配布する、そして互いに認知されることで「農福連携」につなげる。農福連携のワードすら知らない事が多くもっと互いに発信すべきツールがあればいいと思う。本日はとても勉強になった。

○意見交換会では一方的なお話ばかりで、会場からの質問の場がなかった。その点が残念で、今から取り掛かろうと思う者に成功者だけの声はハードルが高かったが、行政の方(農林機構様、セルフセンター様、サイトウ様)のお声で不安感が少し楽になった。頼れる所がある。

○新しい情報が聞けてとてもよかった。特に身近な取り組みがみられてうれしく思う。

○農福連携が少しずつ拡大していく事で農業への関心が少しずつ上がっていると感じた。

○農福連携に向かう為の事務手続きや障害者さんを受け入れるマニュアル等の見える化。

○市や普及センター単位での情報交換の場とともに、役所の職員や議会議員の参加を呼びかけて欲しい。

○言葉は知っていたが具体的なことがわからなかったので勉強できた。どのような作業が可能なのか、これから相談していきたい。

○地方、特に中山間地域では高齢化、人口減少により農業は成り立たなくなっており、作業支援として地域を支えることや農福連携で支える仕組みができればいいなと思う、個人農家や地域と連携できる仕組みがあれば、田舎は助かると思う。

○意見交換会のパネラーが多く、質疑応答形式のほうが、具体的な話が聞けたのでは？

【福祉関係者】

○良い話を聞かせていただいた。

○プロジェクターと同じ中身の資料を配布してくださるのはありがたいが、資料に書き込みたい時に照明が暗くしてあるので書き込みがやりにくかった。室内照明を明るくしてほしい。

○県内の様々な事業所の取り組み、産物、展開を知るきっかけになった。人間が生きていくうえで大事な「食」地産地消、自給率UPなど人の力で広げる事が可能であることが理解できた。事業者の方々のアピールされる産物を、もっと詳しく聞きたい。

○農福連携に取り組む相談機関や助成があれば良いと思う。今後、軽度の障害がある方々の受け皿として有機農業を勉強したい。障害者施設側の、一番の不安は設備等にかかる費用。継続した事業とするため不安が大きく一歩を踏み出せない状況。

○福祉社員の高齢化に伴い労働力の低下が見られる。市のリサイクルセンターで福祉社員40人を雇用し、ペット、アルミ缶、スチール、ビンなどの選別を行うが、高齢化に伴い作業スピードも低下している現状。農福連携や工賃向上のため企業との連携を考えたい。厚きアドバイスがあれば。

○福祉を理解した農業者の方が多くおられる事に安心した。

○一番の課題である資金の調達について、議事進行がなかったのは残念。

○とても見やすく聞きやすい会場でした。農福の色々な形を知ることができ、農福の可能性の広がりを感じた。意見交換会は多くの取り組みを知る事が出来て良かったです。駐車場が多くて無料で助かった。

○農福連携をどのように工賃に結びつけていくか、不安も多くありますが、道筋の一端を講演等を通じて知ることができた。農業サイドにとっても、福祉サイドにとってもWin-Winの関係性が構築されれば。（※福祉サイドは「作業」が搾取されやすいのも事実ではないか。）

○農福連携に取り組みたいという思いはあったが、具体的に何をどうしたらよいか分からなかった。今回のセミナーに参加して、一歩踏み出そうと思った。B型作業所を立ち上げるのか直接雇用するか。

○大変すばらしい交流会で良い刺激になった。今後の参考とともに、このような交流会を希望したい。

○人材育成、サービス管理責任者の確保がハードルが高く苦戦している。コスト削減だけでなく何かの方法を指導して欲しい。

○作業を分解してできることを障害のある方にやっていただき、まずやってみる。マニュアル化やコミュニケーション、施設外就労、農地を借りるのは勝手にできない。大変参考になった。

①農福連携を進めるにはマッチングがポイントと思慮。行政とともに、民間でその役割を担う組織が多くできると良いのではないかな。

②制度について行政の説明だけでなく、制度を活用して成功した事例発表が必要。

○今後もこういった場があれば、参加していきたい。

【行政（農政部局）】

○参考になる内容だった。大変勉強になった。

○農福連携に取り組んでいる方の話を伺って、課題等を知ることができた。

○農福連携に積極的に取り組まれている方のお話を聞けてとても参考になった。担当地域のことしか今まで知らなかったが、県内外の事例を知れたことはとても良かった。

○市の施策の参考となりました。

○以前、事業所の方が農作業の現場管理をされている際、作業が完了せず、かなり大きな声で指示されていた。ノルマ達成ができずピリピリした様子が伺えた。

受け手が単なる安い労働力と見るなら作業者が大変ではないか。今回のパネラーのように心にゆとりがあるのか判断する必要があると思う。

○取組事例について、農福連携を始めるにあたり、様々な課題への解決方法についてのお話は本当に参考になった。また、様々な取り組みについてお話が聞けたことで、今後の取り組みに大いに役立てることができるのではないかと。また、会場設営、時間設定、すばらしかったです。

【行政（福祉部局）】

○取組発表では、実践の良さと課題を知ることができて農福連携について深く理解することができた。意見交換会では実際の農業者サイド、福祉サイドのリアルな声が聞くことができて農福の「はじめの一步」について、それぞれの視点から整理することができた。これから取り組んでいく事業者、農業者にとって有意義な情報が多く、有意義な交流会であった。

【その他】

○出席者（意見交換会参加者）の席を指定することで、どの分野での事業関係かわかるための配慮だと感じた。

○農業者側、就労継続支援施設側からの具体的な事例について知ることができた。こちら側のニーズやできることをよく確認した上で、関係機関に対して情報を伝えること、また、関係機関のニーズやできることについて理解を深めていく必要があると感じた。

○自分の立場から、どのような支援ができるのか、もっと勉強して農福連携の推進のため貢献していければと思う。

○多くの実践者から、取組方法やご苦労など具体的にお伺いすることが出来てとても勉強になった。農福連携の可能性や魅力の感じられる1日でした。貴重な機会に感謝したい。

○貴重なお勉強の場となった。刑事施設としても少しでも農福連携の力になれるよう取り組んでいきたい。

意見交換会の参加者紹介

《 農業者等 》

農事組合法人みやまえ営農(加古川市)

平岡 建造 氏

令和4年度、就労継続支援A型の福祉事業所と覚書を締結。集落営農はこれからも人手不足が続く。農福連携による労働力の確保は、これからますます重要になると考える。



花卉園芸 長谷川(三木市)

長谷川 いづみ 氏

県の園芸療法促進事業がきっかけで農福連携に取り組む。季節や天候を問わず1年中栽培できるよう施設内でのベビーリーフ栽培を取り入れる。立位・座位・車椅子の作業を想定した高設ベンチの設置など、受け入れ態勢を工夫。



壽(ことぶき)ファーム(太子町)

万壽本 佳明 氏

就農と共に農福連携を始め、収穫したネギを福祉側の施設に運び、袋詰め作業を委託。最近では、農福連携事業の講師として呼ばれる機会がある。



株式会社おかもと農園(姫路市)

岡本 将司 氏

県認証食品制度等を活用したブランド化を進め販売チャネル拡大に意欲的に取り組む。姫路市兼田の野菜農家の二代目が就農5年目に法人化。法人化の翌月から農福連携に取り組む。若手農業者組織の会長を務める。



Home Base(三田市)

畠 一希 氏

週3日はJA勤務、週3日は農家として働くダブルワーク(半農半X)を実践している。県が主催する農福連携研修会の参加が契機となり、就農1年目から農福連携に取り組む。農福連携では、利用者の色々な特性等への理解と特性に応じた作業内容を委託することを心がけている。



《 就労継続支援施設 》

上野丘さつき会(神戸市)

佐原 賢治 氏

昭和43年に社会福祉法人上野丘学園として開園。開園当初より地域の農地を借受けて農福連携に取り組む。施設内の圃場等において、多種多品目の野菜を中心に露地・ハウスで栽培。米や大豆、加工品にも取り組んでいる。



書写ひまわりホーム(姫路市)

田摩 正三郎 氏

施設の開設初期から各種野菜を栽培、営農組合から水稻の苗の管理を引き受け、サツマイモ、ブルーベリー、リンドウを栽培。兵庫県の「農福連携支援アドバイザー派遣事業」を活用し、パティシエの指導を受けブルーベリーのジャムを製造。リンドウは、JA直売所と市場に出荷。



エイビーエス就労支援事業所宿花(よみはな)(小野市)

臼井 英之 氏

平成30年に畑を借りて農業を始める。就労支援に携わって10年、農福連携を始めて約5年。利用者には、出来ないことを出来るようにするのではなく、何が出来かを考え、その人が力を発揮できる環境を整えることを心がけている。



お問合せ先

近畿農政局 兵庫県拠点

担当者:大木、田住、福井

神戸市中央区海岸通29番地 神戸地方合同庁舎

☎ 078-331-5924